

* 甲南大にあるバンベルヒ子午儀

誰に聞いたか、何で読んだか、記憶が定かではないのだが、東京天文台にあった子午儀の一つが甲南大に渡されたという話を聞き、昔の仲間の海老塚君が甲南大関係者になったと聞き、海老塚君に甲南大に東京天文台から譲られた子午儀の行方について調べてほしいと依頼してあった。2009年8月6日に海老塚君から「甲南大に子午儀(写真1)があった」と写真つきで連絡をもらった。



写真1 甲南大にあったバンベルヒ子午儀

甲南大は阪神淡路大震災(1995年1月17日)の被害にあい、この子午儀も台から転落し、傷ついたり、ゆがんだりしたらしいが写真で見ると限り、原形をとどめているように思われる。海老塚君から甲南大の坂田先生の話として、「甲南高校教諭だった佐藤まさあき先生(天文学科卒)と云う先生が(戦前日本軍が使っていたものを)戦後、教育用に払い下

げてもらったものだという話が残っているが、学生がこの装置を使うことは無かった」とのことである。

東京天文台75周年記念誌に、東京天文台の主な観測器械として90mmバンベルヒ子午儀が3台記載されているが、現在国立天文台には90mmバンベルヒ子午儀が2台しか残っていないので、残りの1台を探索していたのである。

東京天文台天文時部はとっくに姿を消しており、その末裔が宇宙計量から重力波グループへと変遷はしているが、天文時部時代の物品供用簿の探索から始めようと思っている。

アーカイブ室を立ち上げ、アーカイブ室新聞を発行し活動が知られていくに従い、いろいろな情報が寄せられるようになってきた。ありがたいことである。